平成 27 年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業 研究 成果 報告書

・機関及び学部、学科等名: 富山県立大学工学部情報システム工学科

・所属ゼミ: 卒研ゼミ・トピックゼミ2

・指導教員: 榊原 一紀 ・代表学生: 六川 昇

·参加学生:安久 昌和, 黒田 雄太, 武田 勇哉, 内藤 和海, 中出 勝雄, 中村 龍一郎, 東 周輝, 深川 樹, 宮田 誠弥, 森 俊樹

【研究課題名】

小矢部市における観光客増・人口増を目指した課題把握と情報発信の試み

1. 課題解決策の要約

小矢部市を対象として、観光客の増大を促す方策について検討する.小矢部市では、若年層を中心とした人口減が進む一方で、大型ショッピングモールの開業などにより、観光客の増大、さらには、それを踏まえた転入者の増大などが期待される.それらがより効果的に実現するには、

- (1) 観光客の行動調査,
- (2) 地域の魅力の発掘・整理、および
- (3) 多様な情報発信が重要となる.

本研究課題では、(1)および(2)を中心に検討した.

2. 調査研究の目的

小矢部市に開業した大型ショッピングモールを対象として,訪問客の属性(年齢,性別,出身,目的,移動手段,興味など)を明らかにする.具体的には大型ショッピングモールとして,平成27年7月に開業した三井アウトレットパーク北陸小矢部(以下,「アウトレットパーク」と呼ぶ)を調査対象とする.アウトレットパークを対象とすることにより,これまでに小矢部市を娯楽・観光目的で訪れていた人々とは異なる属性の詳細を明らかにできる可能性があるためである.この調査を踏まえて,小矢部市の多様な観光資源の発信方法を具体化できると考えられる.

3. 調査研究の内容

3.1 概要

- (1) 小矢部市観光協会会長,専務理事との対話(10/16;小矢部市役所会議室)
- (2) 観光客の行動調査 (第1回; 11/28)

- (a) 交通調査 (アウトレットパーク 駐車場)
- (b)アンケート調査 (アウトレットパーク北陸小矢部観光ブース周辺)
- (c) 視線調査(三井アウトレットパーク北陸小矢部観光ブース周辺)
- (d) アンケート調査 (道の駅メルヘンおやべ(以下,「道の駅」とよぶ)周辺)
- (3) 観光客の行動調査 (第2回; 1/16) 上記(a)-(d), および
 - (e) ドローンによるアウトレットパークおよび道の駅間の自動車交通動態調査

3.2 調査時の様子:

調査時の様子を以下の写真 1-3 に示す:



写真1: アンケート調査(2-b)



写真 3:交通動態調査(3-e)

3.3 調査の詳細

(1) 小矢部市観光協会会長, 専務理事との対話

平成27年10月16日に小矢部市役所会議室にて、小矢部市観光協会会長中嶋秀明氏 および専務理事 森谷義一氏から、小矢部市の観光資源、現状および課題について講演 いただいた. 主な内容としては

- ・ 卵や米などの観光資源
- ・ 大型ショッピングモールの出店や外国人観光客の増大

- ・ 国内外への情報発信の必要性
- ・ 宿泊施設の減少, など

について説明いただいた.一方で、学生からは、富山県内における小矢部市の観光資源について、認知度が必ずしも高くない現状について意見があった.

(2) 観光客の行動調査(1回目)

平成 27 年 11 月 28 日(土)に、アウトレットパークおよび隣接する施設である道の駅にて、(a)-(e)の調査を行った、天候は雨だった。

(a)では、駐車場に駐車されている車両の地域および車種について調査した. (b)では、図 1 に示すようなアンケート調査票をアウトレットパーク内の観光ブース周辺の利用客に記入いただいた. そこでは、個人属性に合わせて、小矢部市の観光資源に関する認知度についても調査した. (c)では、観光ブース周辺を移動する利用客の視線を追うことにより、観光ブースのどの箇所をどの程度見ているか調査した. これにより、利用客の観光ブースに対する興味の対象および程度を明らかにする. (d)では、アウトレットパークに隣接する道の駅にて、(c)と同様のアンケート調査を行った. これにより、アウトレットパークと道の駅の相互利用の実態を明らかにする.

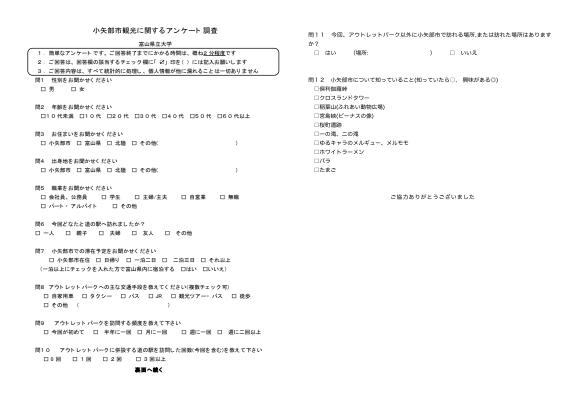


図 1: アンケート調査票(2-b)

(3) 観光客の行動調査(2回目)

平成 28 年 1 月 1 6 日(土)に、アウトレットパークおよび道の駅にて、(a)-(e)の調査を行った、天候は曇りだった。

(a)では、アウトレットパークに流入する車両について、地域および車種に加えて、乗車している人の属性(年齢、性別など)を調査した。(b)-(d)では、1回目での調査と同様の内容について、改善された方法にて調査した。(e)では、アウトレットパークと道の駅の中間地点付近にドローンを飛行させ、上空から、一定時間(30 分程度)内に、両施設間の車両の移動を調査した。

4. 調査研究の成果

- 3. で述べた調査にもとづき以下の事項(一部)を確認した:
 - (a)交通調査
- (1) 富山県,石川県からの利用客が多いのに対して,岐阜県からの利用客は比較的 少ない
 - (2) 家族向け車両(ミニバン)および軽自動車が多い.
 - (3) 二人以上での乗車が多い.
 - (b) アンケート調査(アウトレットパーク)
- (4)周辺地域からの利用客が多いのに対して、小矢部市からの利用客は比較的少ない.
- (5)「クロスランドタワー」,「メルギュー(ゆるキャラ)」や「倶利伽羅峠」などに対して,一定の知名度,興味がみられる一方で,農産物に対する知名度は高くない.
 - (c) 視線調查
 - (6) 家族連れ、および 20-30 代の男女ペアが比較的、観光ブースに視線があった.
 - (d) アンケート調査(道の駅)
- (7)30代以上の利用客が多い. その殆どが, 定期的な利用であり, 農産物の購入も目的としている
 - (8) フードコートの利用が比較的多い.
 - (9) アウトレットパークと相互利用が一定数あるものの, 半分以下に留まっている.
 - (e) 交通動態調査

ドローンを高度 100m まで飛行させたものの, アウトレットパークおよび道の駅を両方をカメラ視野に納めることができなかった.

5. 調査研究に基づく提言

アウトレットパークの出店により、小矢部市には定期的な人の流入が続いている. また、小矢部市の観光資源に対する一定の関心が確認された.これらの観光資源について、交通サービス網をより充実させる価値があると考えられる.また、農産物については、アウトレットパーク内観光ブースと道の駅との連動より多面的な情報発信が必要であると考えられる.

6. 課題解決策の自己評価

3. の調査により膨大なデータが収集できた. そのためデータの整理に膨大な時間が必要となり、十分な解析がなされたとは言いがたい. 今後、統計的手法や形式的手法により、知見を整理する必要がある. また、(e)のドローンによる交通動態調査は、調査方法自体に問題があり、データを得ることはできなかった. 今後、より高度な飛行を可能とするか、あるいは高視野なカメラを積載するなどの方法の改良が必要となる.